

## 1 産地の概要

＜対象地域＞ 富士宮市  
 ＜対象品目＞ キャベツ  
 ＜産地の現状・課題＞

- ・富士宮市は酪農、茶の栽培が盛んだが、近年茶価が低迷していることから、複合経営作物として野菜栽培が推奨されている。また、他の品目生産者の所得向上対策としても野菜栽培が推奨され、現在、契約栽培等によるキャベツの産地化に取り組んでいる。
- ・しかし、キャベツの栽培経験が浅いことから技術的な課題が多く、また、農地の1区画が小規模で分散している。
- ・このため、キャベツの産地化に向け、機械化一貫体系の確立とほ場基盤整備による作業の効率化、各種データに基づく計画的な生産体系を確立する必要がある。

## 2 検討体制

- ＜JA富士宮スマート農業推進協議会構成員と役割＞
- ・JA富士宮加工用キャベツ生産者（役割：新たな営農技術体系の検討）
  - ・ヤンマーアグリジャパン（役割：研究会への情報提供、協力）
  - ・静岡県富士農林事務所（役割：データ検証、計画作成支援）
  - ・富士宮市役所（役割：事業実施への助言、協力）
  - ・静岡経済連（役割：計画策定の助言、研修会への協力）
  - ・JA富士宮（役割：協議会事務局、事業全体のコーディネート）



全自動移植機



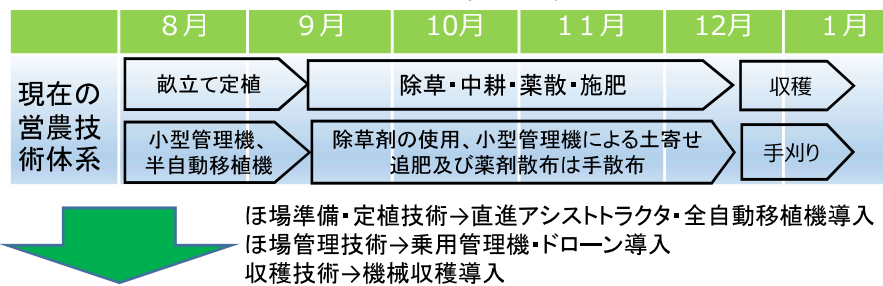
ドローンによる防除

## 3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

スマート農機による機械化体系を構築し、農作業の効率化・労働時間の削減を図る。

データに基づく高品質栽培技術を実践し、契約業者のニーズに合ったサイズ、納入時期の達成率を高める。



＜新たな営農技術体系の効果（検証結果）＞

- ・畝立て・定植〔現状〕管理機・半自動移植機2人→直進アシストトラクタ・全自動移植機1人
- ・除草・中耕・施肥〔現状〕管理機・手作業2～複数人→管理機・除草カルチ1人
- ・薬散〔現状〕手作業1～複数人→ドローン2人

作業人員約5割↓

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

